

# 形成外科

## 1 構成員

	平成22年3月31日現在	
教授	0人	
准教授	1人	
講師（うち病院籍）	0人	（ 0人）
助教（うち病院籍）	2人	（ 1人）
助手（うち病院籍）	0人	（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人	
医員	2人	
研修医	0人	
特任研究員	0人	
大学院学生（うち他講座から）	0人	（ 0人）
研究生	0人	
外国人客員研究員	0人	
技術職員（教務職員を含む）	0人	
その他（技術補佐員等）	0人	
合 計	5人	

## 2 教員の異動状況

深水 秀一（准教授）	（H19. 2. 1～19. 3. 31 助教授；19. 4. 1～現職）
藤原 雅雄（助教）	（H19. 4. 1～現職）
鈴木 綾乃（診療助教）	（H19. 4. 1～21. 3. 31 医員；21. 4. 1～現職）
水上 高秀（医員）	（H19. 4. 1～現職）
永田 武士（医員）	（H21. 4. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5編	（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	4.60	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編	（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編	（ 1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1編	（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Mizukami T, Fujiwara M, Suzuki A, Fukamizu H: Extensive pyoderma chronica: Two case reports - Treatment of pyoderma chronica -. 日本形成外科学会誌 29, 259-264, 2009.
2. Fujiwara M, Mizukami T, Suzuki A, Fukamizu H : Sentinel lymph node detection in skin cancer patients using real-time fluorescence navigation with indocyanine green: preliminary experience. J Plast Reconstr Aesthet Surg 62, e373-378, 2009
3. Fujiwara M, Suzuki A, Mizukami T, Terai T, Fukamizu H: Prefabricated scalping forehead flap with skeletal support. J Craniofac Surg 20: 1182-1185. 2009

インパクトファクターの小計 [1.951]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Ito T, Fukamizu H, Ito N, Seo N, Yagi H, Takigawa M, Hashizume H: Roxithromycin antagonizes catagen induction in murine and human hair follicles: implication of topical roxithromycin as hair restoration reagent. Arch Dermatol Res 301: 347-355, 2009

インパクトファクターの小計 [1.415]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Ito R, Fujiwara M: Lower lip reconstruction with a hard palate mucoperiosteal graft. J Plast Reconstr Aesthet Surg 62: e333-336, 2009

インパクトファクターの小計 [1.235]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 深水秀一, 藤原雅雄: 遊離植皮術における種々の工夫. 楠本健司編, PEPARS. No34. 遊離植皮術のコツとup date, 全日本病院出版会, 東京, 66-73, 2009.

(5) 症例報告

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kawakatsu M, Fujiwara M, Iwasaki K, Sumiya A: A case of venous varix of the volar digit and review of the literature. Hand Surg. 14: 53-56, 2009

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### 4 特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数（出願中含む）	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	4件 (120万円)

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	1件	3件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	3件
(6) 一般演題発表数	0件	

##### (1) 国際学会等開催・参加

##### 4) 国際学会・会議等での座長

深水秀一：第19回日中形成外科学会，横浜市，2009.10. 5-6.

##### (2) 国内学会の開催・参加

##### 1) 主催した学会名

第17回日本熱傷学会東海地方会 2010.1.23.

##### 4) 座長をした学会名

第25回日本皮膚悪性腫瘍学会総会学術集会  
第44回日本形成外科学会中部支部学術集会，  
第6回日本乳癌学会東海地方会

##### (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

深水秀一：日本形成外科学会評議員，日本皮膚悪性腫瘍学会評議員，日本褥瘡学会評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. インドシアニングリーン（Indocyanine green）を用いた皮膚の血行動態の評価
2. 皮膚悪性腫瘍におけるインドシアニンググリーン（Indocyanine green）とRIを併用したセンチネルリンパ節（sentinel lymph nodes）の同定と評価

上記について論文発表および学会発表を行った。また2に関しては厚生労働省研究班でデータの報告を行った。